

## コミュニティ・スクールの特性を生かした学び場の構築 ～「社会に開かれた教育課程」の体现を目指して～

本所 克寿(明石市教育委員会事務局学校教育課指導主事)

### 1 研究計画立案の背景

本研究は、コミュニティ・スクールの特性に着目し、子どもが地域と主体的につながり、当事者意識をもって自分たちの地域をよりよくしていこうとする素地の涵養に資する学び場の構築を目的とする。本研究の背景には、本市においてコミュニティ・スクールを導入したものの、「育む子ども像や学校・地域が向かう今後のビジョンは共有できたが、具体的な連携や参画の方法、学校と地域が一体となった教育活動の構想・精査までには至っていない。」という明確な課題が見られた。その課題解決に向け、本研究は、コミュニティ・スクールの特性を生かし学校と地域が連続的・継続的な連携に向かう学び場の構築を目指した。

#### 【研究の目的】

- ・学校と地域が連続的・継続的に連携できる学び場を構築すること。
- ・学び場の具体として、単元及び教育活動を構想し、それらを教育課程上に明確に表すこと
- ・そのような学び場での学習を通して、子どもが「地域の担い手」としての意識をもつこと

### 2 本研究における自身の仮説

「地域の担い手」となる子どもを育むために、具体的な教育活動を組織することができれば、子どもたちは地域と存分に関わることを通して、地域への愛着を高め、地域に貢献したいという意識を顕在化することができるだろう。

### 3 研究の方法

#### (1) 抽出校の決定

市立41小中学校から1小学校を抽出し、調査研究を進めた。

#### (2) 地域と連携した単元及び教育活動の構想

1年生から6年生まで、各学年における地域と連携した学習等を構想し、全学年の年間指導計画に位置付けた。

#### (3) 単元及び教育活動の実施

(2)において構想した単元及び教育活動を実施し、見取った児童の学び等、実態を把握した。

#### (4) 構想・実施した単元及び教育活動を精査し、教育課程の編成に反映

学習内容や時間数等、実践によって得られた情報をもとに、単元及び教育活動を修正・補完し、学年間の関連も考慮しながら教育課程上に位置付けた。

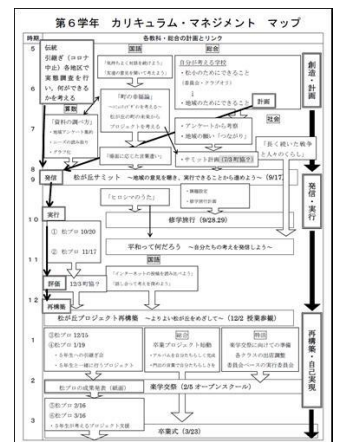
### 4 研究の結果及び成果

#### 【結果】

- ①すべての学年において地域と連携した単元及び教育活動を構想した
- ②「カリキュラムマネジメントマップ」を作成し、①の単元及び教育活動を可視化した。
- ③さらに、学校教育目標と教育活動のつながりを「グランドデザイン」に表した。

#### 【成果】

- ①子どもたちにとって、学ぶ目的や意味が明確化し、学習効果が高まったと捉えている。
- ②子どもが自分たちの地域に対しての愛着や関心が高まった傾向が見られた。
- ③教育活動に継続的に関わった、地域の大人にとっての学びや「生きがい」につながった。



「カリキュラムマネジメントマップ」

### 5 今後の課題

本研究にて編成した教育課程を今後実践していくにあたって、地域との連携を持続・保持していくことが課題である。地域の方、学校の教職員は異動等があり、固定的なものではない。現存する教育課程が、学校及び地域に真に根付くために、今後も引き続き学校と地域が「社会に開かれた教育課程」の意味や価値について熟議していくことが望ましいと考える。